

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 **第1部国際協力分科会** 更新日 **2012/12/5**
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) **国際社会科学団体連盟**
(欧文) **International Federation of Social Science Organizations**
(略称) **IFSSO**

日本学術会議加入年(西暦) **1977** 年

運営組織の名称・役員構成等

運営組織の名称(欧文) **IFSSO Executive Board**

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Dr. Nestor Castro	Dr. Keokam Kraisaroph	Dr. I Ketut Ardhana	Dr.Yakti Maunati
(国)	フィリピン	タイ	インドネシア	インドネシア

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

2009年度総会 (General Assembly)における理事会(Board Meeting)で、メンバー国の投票権規定が改定され、Full memberは2票、Associate Memberは1票とし、担当職は国別に分担し職責を全うすることとなった。

加入国・地域の数 **13** ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

日本、韓国、オーストラリア、タイ、フィリピン、インド、インドネシア、バングラデシュ、ナイジェリア、ハンガリー、チェコ、トルコ、ブルキナファソ、

国際学術団体のホームページURL <http://www.ifssso.org/>

国際学術団体の年間運営経費 **738,086**バーツ
日本の分担予定額[事務局で記入] **41**千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011年	第20回 IFSSO General Conference	Chiang Mai, Thailand	269名	4名	無
2009年	第19回 IFSSO General Conference	Chiang Mai, Thailand	100名	4名	無
2007年	第18回 IFSSO General Conference	Bali, Indonesia	35名	2名	無
2005年	第17回 IFSSO General Conference	Bangkok, Thailand	50名	2名	無
2003年	第16回 IFSSO General Conference	Jakarta, Indonesia	32名	3名	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012年	第22回 IFSSO Executive Board Meeting	Jakarta, Indonesia	4	0名	無
2011年	第21回 IFSSO Executive Board Meeting	Batangas, Philippines	6	2名	有
2010年	第20回 IFSSO Executive Board Meeting	Bali, Indonesia	4	1名	有
2009年	第19回 IFSSO Executive Board Meeting	Bangkok, Thailand	4	1名	有
2008年	第18回 IFSSO Executive Board Meeting	Bangkok, Thailand	4	2名	有

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

1. Aguilar, C.T. ed. (2007) Ethnicity: Socio-Cultural and Economic Challenges, Quezon City: IFSSO
2. Aguilar, C.T. ed.(2004) Environmental Protection and Regional Development, IFSSO
3. Agullar, C.T. ed. (2002) Political Culture and Globalization, IFSSO
4. Aquilar, C.T. ed. (2000) The Interface of the Social Sciences and Science and Technology in Development Modernization, IFSSO
5. Aguilar, Carmencita T., ed.(1998) Transition Regimes: Political and Socio-Economic Transformations.
6. Aguilar, Carmencita T.ed. (1995) Cooperation and Conflict in Global Society, IFSSO
7. International Federation of Social Science Organizations(1983). Social Sciences in the 1980s. Copenhagen:
8. International Federation of Social Science Organizations(1981). Social Sciences in the 1980s. Copenhagen:
9. Loubser, Jan J. (ed.)(1980) The Indigenization of the Social Sciences in Asia. Copenhagen: IFSSO
- 10.Conference of National Social Science Councils and Analogous Bodies. International Directory of Social Organizations. New York: K. G. Saur Pub., 1979

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>国際社会科学評議会(ISSC)とは、永い関係があり、IFSSOの会長・副会長は歴史的にはISSCの理事を兼任していた。従ってIFSSOはISSCの主要なMember Organizationとして協調関係を保っており、その関係からIFSSOの大会テーマはISSCの国際的課題にコミットする形で、研究テーマを絞ってきた。しかし2011年からは、ISSCの研究テーマに関する財政援助方式が変更になったことから、IFSSOは独自の研究テーマを決定することとなった。</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>IFSSOの研究テーマはいずれも国際的課題(Global Agenda)に関する研究テーマであり、これまでの研究活動と出版活動により、様々な関連機関への研究成果が伝達されている。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>IFSSOの研究活動は、特定の国際事業とのコラボレーションは無いが、これまで参加した多くの個人、大学研究機関及び社会科学団体を通じて、国内外の国際的な事業団体にも直接間接的な影響を及ぼしてきた。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>IFSSOの取り組んで来た研究テーマは、すべて国際的で全世界的な課題(Global Agenda)であり、地域的課題も国際的な共通課題として議論の場を提供している。先進国と発展途上国の両者に跨る緊密な研究課題として、特にアジアの発展途上国とアフリカの多くの途上国の現状に目を向けるべき研究課題も視野に入れて取り組んできた。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>21世紀の社会科学の研究には、東洋と西洋、先進国と途上国とをグローバルに連携する学術交流が重要となっている。そのため、世界各地域を組織的・永続的に連携し研究課題をリアルに捉える国内外の連携構築が重要課題となっている。</p>

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
IFSSO会長(現在、特別顧問)	小松 照幸	2007	2011
IFSSO理事	西原 和久	2008	2014

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名

第1部国際協力分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
多文化関係学会	300	http://www.js-mr.org/
日本社会学会	3600	http://www.gakkai.ne.jp/jss/
社会政策学会	1000	http://wwwsoc.nii.ac.jp/sssp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

第1部国際協力分科会
第1部

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
小谷汪之	白田佳子	山本真鳥	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
5人	8人	2人

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

AASSREC/IFSSOへの対応。ISSCとの協力。アジア学術会議への対応。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
20010/6/25	第1部国際協力分科会(第2回)。ISSCの児玉副会長(三重大学)に参考人として出席してもらい、ISSCの現状を聞いた上で、今後どのような関係を持っていくかを討議。
20010/5/17	第1部国際協力分科会(第1回)。分科会役員の選出と今後の活動方針の討議。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

2007年名古屋総会・大会の記録を『アジアの経済発展と環境問題』(明石書店、2009年)として刊行し、後援諸学会、協賛団体等に配布した。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

6月13日の公開講演会に、多くの学会の協賛を呼びかけ、賛同を得た。今後これらの学会との協力関係を恒常化することが課題。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

なし。ただし、国際委員会直属から、第一部関連分野別委員会合同の分科会になったことが良い方向に向かっていると考えられる。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

隔年総会・大会に向けての準備の態勢が整いつつあり、今後さらに諸学会との協力関係を強めていけば、存在意義を高めることが可能であろうと思われる。